

いもう 葦毛通信



ミコシギク

2023年12月4日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 148

1、三太郎池湿地を豊橋市指定天然記念物にしました！

豊橋市教育委員会は、令和5年10月27日（金）に豊橋市岩崎町にある三太郎池湿地を天然記念物に指定しました。これで豊橋市の天然記念物は、国指定2件（石巻山石灰岩地植物群落、葦毛湿原）、愛知県指定3件（豊橋のナガバノイシモチソウ自生地、お葉付公孫樹、高師小僧）市指定6件（三太郎池湿地、長楽の桜、春日神社の榎、玉泉寺の椰、普門寺の大杉、野依八幡社のシダレザクラ）の合計11件になりました。

指定名称 三太郎池湿地（さんたろういけしっち）

指定区分 豊橋市指定 天然記念物

指定面積 3,966㎡

所有者 豊橋市

所在地 豊橋市岩崎町字長尾75-1

指定理由抜粋

三太郎池湿地は葦毛湿原を中心とした湧水湿地群の中でも最も大きな湿地の一つです。

葦毛湿原と同様に東海地方に特有の植物である東海丘陵要素植物群や北方・南方系植物があり、シラタマホシクサ、カザグルマ、サギソウ、サワシロギク、サワヒヨドリ等の多くの湿生植物が見られます。また、ミコシギク、イヌノヒゲ、ニッポンイヌノヒゲ等の葦毛湿原にはない植物も見られます。

特に、**ミコシギク**は**愛知県絶滅危惧ⅠA類**に指定され、愛知県内では豊田市の湿地と三太郎池の2か所だけに自生しています。

植物以外にも、チョウトンボやイトトンボ類がみられ、葦毛湿原では見られないような種も見ることができます。

三太郎池湿地は、葦毛湿原に次ぐ大きな湿地で、葦毛湿原には生育しない希少植物も見られることから、豊橋市指定天然記念物になりました。指定地内は、**動植物の採取は禁止**されています。貴重な湿地を次世代に引き継いでいけるように、ご理解とご協力をお願いいたします。



三太郎池湿地（1968年：星野清治撮影）



三太郎池湿地（2019年10月26日）

50年以上前の三太郎池湿地（前頁左写真参照）は、現在よりも水位が低く、水辺には裸地が広がり、良好な明るい湿地でした。背後の山には木がありますが、水辺には大きな木はありません。植生回復作業前の2019年には水辺近くまで木が侵出して森になり、竹林も大きく広がっています（前頁右写真）。

ミコシギクは前頁左写真の中央部分を中心に多く自生しており、3～4か所に自生地点が分かれていたようです。花は密集して開花し、1968年では優に千を超える花が咲いていたようです（下写真）。しかし、池の堤防が改修されて水位が上がり、湿地に木が侵出して暗くなり絶滅寸前の状態になり、2018年には開花数が1輪になってしまいました。



三太郎池湿地のミコシギク（1968年：星野清治撮影）

2、最後の1輪からの復活！

三太郎池のミコシギクは2018年には開花数が1輪になってしまい、絶滅寸前の状態でした。このままでは絶滅を回避することはできないと考え、葦毛湿原で行っている方法と同様の植生回復作業を2019年と2020年の2回行いました。木を伐り、丁寧に除草して土をむき出しにして、地表面に直接太陽の光が当たるようにし、埋土種子の発芽を期待して作業を行いました。

ミコシギク開花数				
年	D地点	B地点	合計	備考
2018	1		1	
2019	5		5	植生回復作業
2020	5		5	植生回復作業
2021	43		43	
2022	88		88	シカによる食害
2023	101	1	102	防鹿ネット設置



植生回復作業前（2017年6月27日）



植生回復作業後（2020年5月6日）



自生地点植生回復作業中（2019年11月1日） 植生回復作業後（2021年10月24日）

その結果、明るくなることによって2021年には開花数は43輪まで回復しました（写真）。しかし、2022年には鹿による食害が発生してほとんどの花が食べられてしまい、最後に確認されたのは根元に隠れていた4輪で、種子ができたのは2輪だけでした。

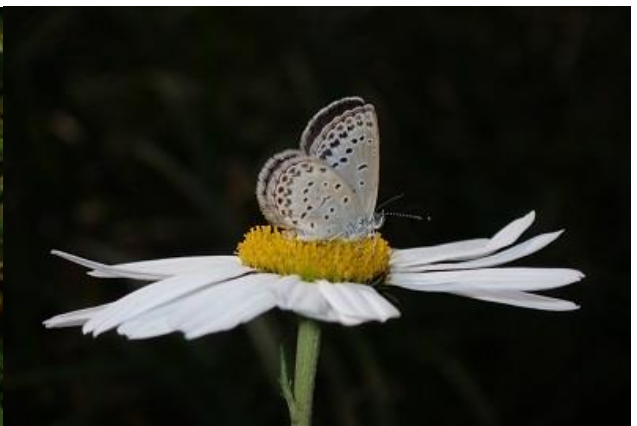


ミコシギク開花状況（2021年10月24日）

ミコシギク近景



ミコシギク拡大



吸蜜するヤマトシジミ

3、防鹿ネットの設置

葦毛湿原の防鹿ネットは2023年6月20日に設置し、詳細は葦毛通信 No. 143 に掲載しました。三太郎湿地では2022年11月にセンサーカメラを設置してシカによる食害が想定されたので、葦毛湿原での防鹿ネット設置より先行して、2023年2月に防鹿ネットを設置し、10月には動物防除剤のウルフピー（ハイイロオオカミのオシッコ）をネットの支柱の9か所に設置しました。

ミコシギクの花が無くなっているのを確認したのは2022年10月31日で、84輪中65輪が無くなっており、19輪が残っていました。しかし11月16日には残りの19輪もなくなっていました。当初、人間による摘み取りを考えましたが、センサーカメラを設置したところ、ニホンジカのオスが少なくとも3頭確認でき、何度も来ていたようです。ニホンカモシカも写っていましたが、撮影回数は少なく、ニホンジカによる食害だと思われます。



ニホンジカの食害（2022年10月31日） **ニホンジカの食痕（2022年11月16日）**



ニホンカモシカ（2022年12月31日）

ニホンジカ（2022年12月30日）



防鹿ネット設置状況（2023年2月14日）

今年の開花状況（2023年11月12日）